

『越えられない夜も、越えて』 作 岡本拓也

■登場人物

恵 … 25歳 女性。教師。陸の恋人。

陸 … 27歳 男性。システムエンジニア。恵の恋人。

南 … 23歳 女性。映像作家。

同棲中のカップル、恵と陸が暮らすアパート。そのリビング。

二人は寝室を分けており、リビングの隣は恵の寝室。

リビングにはこたつがあり、こたつの上に教材やプリント類が置かれている。結婚式で使う、製作途中のウエルカムボードも置かれている。

壁にホワイトボードがかけてあり、家事の一覧表が記載されている。

家事の担当がわかるように、二色のマグネットが貼られている。

(以後 家事分担ボードと記載)

十二月。二か月後に恵と陸は結婚式を控えている。

第一幕

深夜二時頃、寝間着姿の恵が寝室からリビングへ入ってくる。

スマホを覗てしばらく過こしたのち、教材を手に取り、仕事を始める。

恵、こたつの横に置かれたゴミ袋に視線を移す。

ゴミ袋からペットボトルを取り出し、ラベルをはがしていく。

その作業をしばらく続けるが、やがて手を止める。

恵、キッチンへ向かい、激辛のハバネロソースとポテチを持って戻ってくる。ハバネロソースをポテチに過剰な量かけて、無心で食べていく。

夜が明けていく。恵、こたつ机に頭をつけて眠ってしまう。

時間が過ぎて、昼の十二時前になる。

カーテンの隙間からわずかに光が差し込んでいる。

玄関からドアを開ける音、続いて、トイレの水を流す音がする。その音で恵は目を覚ます。

机の上のポテチとハバネロソースを慌てて、近くに隠す。

スーツを着た陸、リビングに入ってくる。

陸はスーツを脱いで着替えながら話す、スーツは床に脱ぎ捨てる。

陸 うい

恵 おは

陸 え、ずっとねとったん

恵 ん、今何時

陸 普通に十二時前

恵 まじかやば。仕事いった？

陸 午前だけ

恵 土曜なのに大変ねえ

陸 前話してた新人辞めちゃってさ

恵 最近休んでるって言ってた子？

陸 そうそう引き継ぎ終わってきたとこだったのに、で二人分仕事してんのよ

恵 大変よのう

陸 そうなんよ。めぐは部活、今日なかったの

恵 ない。休み

陸 部活ない休みめっちゃ久しぶりじゃない？

恵 なんとここまで二十八連勤、一カ月ぶりです！

陸 おー（拍手する）

恵 （拍手する）

陸 いや、おーとかいう状況でもないけど

恵 そして明日はまた部活

陸 休んでくれー

恵 それより陸、昨日ペットボトル、係忘れてたよね

陸 あーごめん

恵 先週も忘れてたよ

陸 ごめん、仕事の考え事してて

恵 おんなじこと言ってるって、あとラベル

陸 あーラベルー

陸、空のペットボトルのラベルをはがし始める。

陸 あーとれね。うぎ。これ取らなくても良くない

恵 その議論またやります？

陸 その論破感こわいって。あれ、他のは？

恵 私が捨てた

陸 あーありがとう次はやるから。（家事分担ボードをみて）ペットボトルが金曜で生ごみが

恵 月曜と木曜

陸 だよね

恵、壁に貼られた、家事分担ボードを取り外して。

恵 もうやめてもいいよこれ、無理ならゴミ捨て私やる

陸 （ボードを恵の手から取るうとしつつ）次はやるって大丈夫

恵 （ボードを渡さず）いや、意味ないもんだって

陸 ほんと。やるから

ボードをめぐってささやかな攻防の末、陸はボードを壁にかける。

陸、再びペットボトルのラベルをはがし始める。

恵、横になりこたつ机の上に足を乗せる。

陸、机の上に乗った恵の足をつかみ床に置く。

恵、もう一度足を机に乗せる。陸は再度、足を床に置くようとするが、恵は抵抗する。

恵 なあにー

陸 (足を押す) 行儀悪い

恵 やだー

陸、恵の足を落とす、恵の足をちよつと触る。

恵 どさくさに足もんだ

陸 もんでないね

恵 もんだよ

陸 事実無根だね。疑うのであれば検察側は証拠品を提出してください

恵 指紋が残ってます

陸 肉眼で見えないので証拠になりません

恵 異議あり、見えないやつが悪いと思います

陸 異議あり。暴論です

陸、恵の足をさわる。

恵 現行犯だ！

陸 自首します

二人はくだらないノリに笑っている。そのノリが終わってからも、陸は恵の足を抱きかかえている。

恵、スマホをみている。

陸 俺、足フェチになるわ

恵 どうぞ

陸、恵の足を触っている。

恵 なに？

陸、恵の目を見る。

陸、恵の身体を触りながら、覆いかぶさるような体制になっていく。

恵はその陸の挙動に対して取り合わず、目線を逸らして、部屋に脱がれたスーツと靴下を指す。

以降、恵は子供に言い聞かせるように。

恵 あれはなんですか

陸 あれは、スーツです

恵 脱いだお洋服はどうするお約束でしたか

陸 靴下は洗濯機、スーツはしわにならないようかけときます

恵 今どうなってるの

陸 床にあります

恵 だめだよねえ、どうするの

陸、スーツと靴下を手に取り、洗面所へ向かう。

恵 手に持った、運んで、えらいえらいねえー

陸、洗面所から戻ってくる。

恵 (中身の入ったペットボトルを指し) あと、このお茶、昨晚陸君が飲んでからこの状態です。冬場とはいえこれはいいいことでしょうか。どうしたらいいだろう

陸 しまいます！

恵 えらい。そうだね (陸がペットボトルを運ぶのをみつつ) よいしょー上手に冷蔵庫しまえたねえ。よくできましたあ

恵、陸を見送ってから、結婚式のウェルカムボードを作り始める。

陸、リビングに戻ってくる。

陸 できました！

恵 はいはいー

陸、恵の背中越しにじやわつく。

恵、じやわつくのをよけつつ。

恵 いまやってるでしょう

陸 あ、ウェルカムボード、ごめん俺の係

恵 いいよはじめちゃったし、早いとこやっときたい

陸 再来月だもんね

恵 そうそう。陸君仕事した後なんだからーおやしゅみしてな

陸 ……

恵 どうしたの

陸 いや。んー。なんか

恵 え、なに。なんか嫌だった？

陸 いや。手伝うわ

陸はウエルカムボードの製作で使用する道具を探している際に、恵が隠した激辛のハバネロソースみつける。

陸 めぐ、また辛い食べた？

恵 違うよ食べてない。昔買って置いてあったやつ

陸、封の空いたポテチもみつける。

陸 いや、何で嘘つくの。ていうか、なんで辛い食べるの、また前みたいに身体壊すよ

恵 いや、普通に病院でも適度な量だったらいいって言われたし

陸 適度じゃないでしょこれは

陸、恵の身体を抱き寄せて頭をなでる。

陸 なんか嫌なことあった？

恵 ……

陸 仕事？

恵 ……

陸 俺、めぐが前調子崩したときさ、やっぱりつらかったよ、病院行ってからもずっと調子悪そうだったし。もう一回ああなるの嫌だからさ、話せることなら話してほしいし、聞いてあげたいし

恵 ちよっと仕事で疲れてた

陸 なんか授業の発表あるんだっけ家でも準備してるもんね

恵 そうだね

陸 後部活もなあ。前の時も大会とかあった時だったよね、やっぱり部活のことは調整してもらったほうがいいと思うんだよね

恵 うん

陸 難しいのはわかるんだけど。よしよし。ひとまずがんばった、えらい。でももう休んでもいいからね、これから結婚式もあるし、新婚旅行も、一緒に楽しいこといっぱいあるんだから、めぐが健康なのが一番なんだから

恵 陸君はやさしいねえ

陸 当たり前でしょう。よしよし。辛いのは一緒にご飯食べるときだけにしよう、俺が作って調節するから。あと乳製品食べるといらいらしいから、その辺も買っとくよ

恵 ありがとう

陸 協力し合っていきましようよ

恵 そうね

陸 よしよし、なんか紅茶でもいれてまったりするか

恵 飲む、ピーチティがいい

陸は紅茶を入れ始める。

恵 じゃない！まったりしてる場合じゃない、忘れてた、結婚式の映像の話なんだけど。凌先輩から連絡あつて

恵、寝間着のボタンに手をかけつつ、寝室へ向かう。

陸 あー今日家で打ち合わせだったよね、夕方だっけ

恵 そうだったんだけど、お子さんがコロナかかっちゃってばたばたしてるから映像の話ごめんって

陸 ああーそっか

恵 で、みっちゃんに連絡したら「昼ならいける」って

陸 えーまじ！みっちゃんか滅茶苦茶久しぶりだわ

恵 まあコロナで飲み会とかもなかったしね

陸 昼って今日来るってこと？

恵 そう、もう少ししたら来ると思う

陸 いやいや言ってよ

恵 だからばたついて忘れてたの、どっちにしろ今日はあるからいいじゃん。で、打ち合わせて撮影もすると思うから

陸 急ピッチだね

恵 だってもう来月には式場に完成した映像出さないとないだよ、映像は私の係だし、陸君は撮られるときにいてくれたらいいから

陸 オッケー。来る前になんかお腹入れとこかな、めぐ昼食べた？

恵 大丈夫。起きたばっかでおなかすいてない

陸 じゃあちよっと作るか、チャーハン余分に作ったらみっちゃん食べるかな

恵 いや、食べてきてるでしょ。え、ていうかちよっときもいでしょ

陸 そうかなあ、ピーチティ入りましたよ

恵、着替えを終えてリビングへ。

恵、マグカップを受け取り、息を吹きかけて紅茶を冷ます。

勢いよく息を拭く。

陸 でた

恵 なんじゃ

陸 誕生日ケーキのろうそく消すときの勢いなんよ

恵 早く冷める気がする

陸 (マネして息を吐く)

恵 はよチャーハン作れや

陸、携帯にイヤホンをさして、流れてきている歌を口ずさみながら、リビングから出てキッチンへ。

恵、スマホをみてから玄関の方をちらっと見る、メッセージを返す。

インターフォンが鳴る。恵が応対する。

南、玄関へ登場する。

恵 わーわーわー

南 わーわーわーひさしぶりですー

恵 あー久しぶりーどうぞどうぞ入ってー

南 ありがとうございますー。ちょっと早く着きすぎましたよね

恵 全然大丈夫ー

南、リビングに入ってくる。

恵 座って座って

南 ありがとうございます。すごい久しぶりですよ

恵 大学卒業してからあんま会えてないよね

南 二年くらい経ってますか

恵 うわー早いなあ

南 めっちゃ会えたの嬉しいです、めぐちゃん先輩全然変わってない、かわいいー

恵 いやいや

南 かわいいー

恵 語彙がなくなってるよ

南 あ、ご結婚おめでとうございます

恵 ありがとう

南 びっくりしました

恵 あー入籍が来月だからさ、まだあんまり皆には言ってなくて

南 そうなんですえ

恵 そう一応記念日合わせで

南 なるほど、まだ付き合われてたことすら知らなかったです。映研の時からですよね

恵 そうそう

南 めっちゃ長くないですか

恵 私が大学一年の終わりくらいだから、七年とか

南 すげー

恵 ていうか、みっちゃん、陸とは面識あるんだっけ

南 面識は一応

恵 映研顔出してたよね

南 そうですね卒業して一年くらい

恵 部活に顔出す〇田って終わりだよね、ごめんね

南 いえいえ手伝ってくれたり差し入れくれたりくらいの軽い感じでしたよ

恵 ていうか陸とみっちゃん、一緒に脚本書いてなかったっけ何年前、ギャラリ
ーで上映会やってたやつ

南 そうですねあの時は脚本お願いして

恵 じゃあ全然大丈夫だねえ

南 でも会ってたのそんな時くらいなので。ほんと久しぶりな感じで

恵 そっかそっか。まあ遠慮なくって感じで

南 はいばっちり、仕事します

恵 今仕事でやってるんだよね映像、フリーランスだよね

南 一応、そうですね

恵 すごいじゃん、映研出ても映像系で就職する人もほとんどいないし、しかもフ
リーランスはすごい

南 いやいや、とりあえず小さくやってみようかってくらいで

恵 結構仕事来てるの

南 今のところほんとに知り合いの紹介とかの感じですね。喫茶店の紹介する映像
とか、町の不動産屋さんと組んで部屋と町の紹介とか

恵 えーすごいじゃん。自主で映画も作ってるんでしょ順調じゃん

南 まだ全然食べれないので、全然です。朝から牛丼を盛り続ける日々ですよ

恵 バイト？朝はしんどいね、上映あったら観に行くから連絡してね

南 ありがとうございます。次の作品準備中なんです

恵 今度も生々しい感じのやつ？

南 そんな印象ですか

恵 生々しいのが好きの印象ある。だってみっちゃん大学の時、彼氏とけんかして
るときの音携帯で録音して、脚本に使ってたじゃん

南 あれはほんと黒歴史です

恵 でもそれで面白くなってたからいいのよ

南 ありがとうございます。でも、ほんと次の作品の準備でお金なかったんで助かりました

恵 大した額じゃないけど

南 六は、でかいですよ先輩……。

恵 式場経由で頼むともっとするし、知ってる相手の方が安心だし

南 助かります。今月末払いついていうか支払いの遅延があり……。まあいいんですね、こんな話は。どうしましょうか内容は

恵 まだ全然決めてなくて話しながらでいい

南 はい。(P)だしつつ)とりあえずオープニングムービーですけど、よくあるのは、外の景色の良いところで二人を撮っていく感じ、JPOPにのせてちょっとPVっぽく見せる感じですよ

恵 あらー楽しそうな

南 ひまわり畑で手つないじったりなんかして

恵 浮かれてんねえ

南 先輩もやるんですよ

恵 なるほど、こういう公園とかの感じね

南 あと海とか。もし時間あるなら何個か候補は考えてありますよ

恵 おー助かる。全然時間ある

南 こっからだど蒲郡の海のあたり綺麗ですし、自然公園も道中あるのでその辺とか。あ、あとこれ前撮りの写真差し込んでるの良くないですか

恵 いい、よきだね

南 前撮りの写真どんな感じですか

恵 どんなつてまあ、和装でやったんだけど……

陸、チャーハンの入ったフライパンを持ってやってくる。

陸 あ、え、ああ

南 お邪魔してます

陸 どうも、あれ、みっちゃん……

恵 え、南、みっちゃん

陸 あ、ああ。いや、そうか

恵 え、なに

陸 普通にめぐの同期のみっちゃんていうか、三島君のことかと思ってた

恵 え、いやいや、違うよ。三島君編集とかできないじゃん。それでチャーハンとか言ってたのか。変だと思った

陸 なるほどお、なるほどお

南 すいませんなんか

恵 いやいや、みっちゃん悪くないし。別に面識あるし、いいよね

陸 ああうん

恵 今日外出かけて撮影するかみたいなお話なってるんだけど

陸 ああそう、でも今から俺チャーハン食べるから。二人でいってもらって

恵 いや、あなた必須ですから

陸 ですよー冗談冗談

恵 五分くらいでいつも食べるんだから、ご飯は食べちゃっというて

南 全然私は時間余裕があるのでごゆっくり

恵 ていうか車で行くよね、私ちよつと今のうちに車片付けてきていい？部活のあれでボールが積んであって片さないんだ

南 先生ですよー

恵 ですよー

恵、家から出る。

陸 ……あ、なんか一瞬わかんなかったわ

南 え？

陸 いや、だって髪が

南 あ、そうですね、あの後黒染して

陸 そうなんだ、結構印象がね、変わって

南 ですかね。あと、眼鏡

陸 あ、眼鏡

南 乱視がちよつとあつて

陸 あ、乱視、モノがぶれる

南 ちよつとですけど

陸 ああ、それは大変だ

南 はい、ああ、すいませんお食事の邪魔して

陸 いや

陸、フライパンにスプーンをつけて直にチャーハンを食べようかというところで手を止めて。

陸 ……あの、あれだな、なんでここにいるんでしょうか南さん

南 なんであつてまあ、ご結婚おめでとうございます

陸 ああ、どうも

南 めぐちゃん先輩のご厚意で結婚式で流す映像の依頼を貰いました

陸 それはわかつて、あのさ、俺いるじゃん

南 いますね先輩は

陸 なんで断らなかつたの

南 あのですね、まず、めぐちゃん先輩から連絡あつて五分くらいの映像数本を撮影と編集頼めないかと、結構急いでて来月末にはほしくて急で申し訳ないんですけどどうだろうと

陸 はい

南 で、『ぜひやります。うれしいです』と答えまして。『ちなみに何の映像ですか』と返しますよ。そしたら『二月末に結婚します』『そこで流す映像を頼みたくて』『二次会はいついつなので招待状も送ります』と勿論ここで陸先輩の名前もでました、ただ今更私断れないですよ

陸 そして、ここにいたる

南 はい。致し方なく。あのそもそもなんですけど、別れたんじゃないですか

陸 別れて、よりもどつた

南 あそこから。奇跡的なこともあるんですね

陸 ある。そのような奇跡を経て、非常に今大事な時期なんだよ我々は、わかってもらえますか？

南 ああ、えっとなんかさつきから謎の圧を感じるんですけど、別に私何も余計なこと言いませんよ得がない

陸 それはそうだろうけど

南 はいあと五分くらいの映像何本か作るくらいですから、会うの今日だけですよ。あと私口固いんで

陸 いやそんな印象もない

南 あ、そういえば一回だけご飯作ってくれましたね、その時もフライパンから自分の分、直で食べてておいおいと思いましたが。私が家泊まった時、ねえ？

陸 あ、だめだ帰ってくれまじで

南 すいませんほんと今の冗談

陸 あのさ、あの、んー。一回別れたときのこと、知ってるじゃん

南 知ってますよ（ふきだす）先輩がピンサロ行ってたのばれて振られた話ですよ
ね

陸 笑うな。とにかくだからこれ系のはまずいんだって

南 これ系。別に別れてる間のことだし大したことじゃないのに

陸 別れている間のことだとしても。こっちにはこっちの文脈があるんだよ

南 そうですか。でも、まあ今日だけですから

陸の携帯が着信。

陸 （電話に出て）今降りる。

南 いきますかー

陸 あのほんとに

南 大丈夫ですって。さてー仕事仕事ー

第二幕

第一幕と同日、夕方。

強い雨の音が外から聞こえる。

玄関を開ける音がする。

恵は洗面所の方に向かう。

恵 タオル、使って

南 ありがとうございます

恵、南、タオルで髪など拭きつつ、リビングに入ってくる。

南 急でしたね

恵 予報外れすぎ。夜までもつっていったのに

南 車助かりました。車なかったら終わってましたね

恵 ほんとそれ

南 駐車場遠いんですか？陸先輩悪いですね

恵 いいよコンビニ寄りたいって言ってたし、駐車場はねそこ

恵、窓に近づいて近くの駐車場を指し示す。

南 近いですね

恵 そうなただけど駐車場別で借りないとなのだるすぎ

南 だるいっすね

恵 だが家賃がいいからな。ああ、ちょっと待って。プロフィールムービーで使うやつもってくるわ

南 ありがとうございます

恵、リビングの隣の恵の寝室へ向かう。

南 撮影してた時、映研の時の感じ思い出しましたねー

恵 ね。撮られるの楽しかったわ

南 めぐちゃん先輩は出ると絵になるので

恵 ぎこちなかったけどね、陸よりはましか

南 右手と右足一緒に出してましたもんね

恵 あれはひどい

南 顔もこわばってたし

恵 ほんとね、でも久々にすごい楽しかった

南 もう映画はやらないんですか、出るほう

恵 やったら楽しいだろうけどね

南 先輩のこと誘っていいなら誘いたいですけどね

恵 やりたいけど、実際時間ないから

南 ですよね、先生忙しいですよ

恵、リビングに戻ってくる。アルバムを持っている。

恵 結局授業の準備とかは定時内じゃ終わらんし、家持って帰ってやろうと思えばいくらでもやれちゃうからねえ、忙しいし他のことやる気力なくなるのよ

南 しんどいですね

恵 あとなんでもデジタル化でタブレットとかみて目とかすっごい疲れてさあ

南 目が疲れたときはここ押すといいらしいですよ

恵 ここ？ああー

南 結構強めで、ちょっといいですか

恵 ああー。すごい

南 指圧師の元カレの遺産です

恵 もとかれ、ありがとー

南 だいぶつかれてますね

恵 疲れるよー。九時に家帰ってそっから何もできないよ。風呂貯める気力もないでシャワーだし、ご飯も、いや時間ないと食生活もおわってくじゃん、コンビニの辛辛魚のラーメン食ってさ、蒙古タンメン中本食ってさ

南 辛いのかだ

恵 なんかあれはねえ食べてるとバカになれるからさ、汗かいて忘れられんだよ

南 私も嫌なことあった日は麻婆豆腐食います

恵 だよねえ。あんま身体によくないんだろうけど。でももう健康的な食事ですトレス解消する領域じゃないから私の生活

南 忙しいと健康無理ですよねえ。私もエナドリ一時期ずっと飲んで

恵 あー

南 でもそれも効かなくなって最近は、カフェインをぎゅってまとめた錠剤飲んですます

恵 やばそう

南 一撃で目覚めます。(ツボ押しをやめて) はいお客様以上になりますう

恵 あーありがと

南 (PCを取り出して) さて仕事仕事ー。プロフィールムービーの構成ですね

恵 ありがと

南 まずめぐちゃん先輩の紹介ですね、生まれたところから「活発な子供でした」とか「部活動」バレーしてましたとか「卒業旅行」とか

恵 うん

南 で陸先輩の紹介もしてから、二人の出会いの紹介、出かけてる写真とかはさんで。何月に入籍しましたって感じですね、最後に「ここまでこれたのは皆さまのおかげです。未熟な二人ですがお願いします」と来賓への感謝を述べて、エンド

恵 おーすごい

南 めっちゃべたです

恵 べたが一番いいから

南 ありがとうございます

恵 (アルバムを広げて) じゃあ、一応持ってきたので

南 おおー

恵 どれ使うかな

南 顔が大きめに映ってるのがいいのと、式に出席してる人が映ると喜ばれるみたいなセオリー……ちよっとちよっと、制服の感じかわいすぎないですか

恵 てか若い。若すぎ。なんかこいつずっと肌焼けてんな

南 これは先輩、もてたでしょ

恵 もてないよ

南 私が断言します。もてます

恵 ていうかよくみて

南 愛くるしいですねえ

恵 違くて、これ、これ、女子女子女子

南 あ、そっか女子高って言ってましたね

恵 もてようもないわけよ

南 他校で彼氏作ったりとかもなかったんですか

恵 二カ月とかで終わったのが一回あったかな。もうほんとそれくらい、ノーカウ
ントじゃないそれって

南 まあわからんでもない

恵 ていうか部活ばっかしてたからなあ。これ、高校までだから、大学以降の写真
はスマホから送る感じにするね

南 りよです

恵 (スマホ内の写真を見る) 一年の頃の写真割と残ってるのよ

南 おー。先輩たちがいっぱい

恵 この集合写真だけで六組のカップルが作れるんですよ

南 え、六もあります？

恵 一年の夏合宿でりようせんばいところ付き合いますー

南 え、マリア先輩そうなんですか、安田先輩との前？

恵 そうりよう先輩と二年の時には別れて、三年の夏合宿で安田と付き合った

南 また夏合宿だ！

恵 あと言うとしみちゃん安田狙ってたけど、結局ここがこうなってこう(指でい
ろんな人同士が関係があったということを示す)

南 うわー！やば！

恵 で、あとは知ってるかこのへんと、うちらもか

恵 あとはもうみっちゃちゃんも知ってるかこの辺と。で、まあうちらもか

南 もうこの頃付き合ってたんですね

恵 これ一年の冬だからね……なんか結局その高校の時のノーカウントをのぞいたら陸が一人目の彼氏ってことになるんだけどさ

南 それで結婚てすごいですね

恵 すごいかな、いやどうなんだろう。じゃなくて私が言いたかったのは、もててないんですよびっくりするくらい

南 わかりました。これから巻き返しましょう

恵 来月には私既婚だぞ

南 まあまあ。人妻っていい響きじゃないですか

恵 何の慰めだ。とりあえずさっきの条件で顔が大きく映ってる、式の出席者が移ってるやつで送るわ

南 お願いします（カメラを取り出して）何枚か家の中での写真も撮っていいですか？

恵 おっけー

写真を撮っているとき、南が床に落ちたペンを踏んでしまう。

床には、他にもチラシ類などが落ちている。

恵 ごめんとりあえず、片付けるね……（床に落ちているものを整理しながら）こんななんいっつも私がやるんだよ

南 おつかれさまです

恵 あっちの実家いったことあるんだけど、お母さんがずっと動いて何でもしてくれる感じなのよ。男性陣腰を上げんかい！

南 実家の感じでやっちゃうんですねえ。私、絶対同棲無理だっと思うんで、先輩は偉いと思います

恵 ありがと。（家事分担ボードをみて）これもさ、家事やったら（マグネット）これ貼るんだけど、前は半々くらいだったのに今や

南 ああ大変だ

恵 言ってもやんないし、最近は作戦を考えまして

南 作戦

恵 こいつは五歳の子供なんだ、言ってもしょうがないという暗示作戦

南 いくとこまで行ってますね

恵 ほんとね、なんともなんないわもう

南 (写真を撮りつつ) でも、結婚するんですもんねえ

恵 そうなんだよねえ

南 のびしろあるかもしれないですし

恵 二十七からのびるかなあ

南 指導しましょう

恵 そうね。いや、なんか、さっき仕事の話したじゃん

南 はい

恵 今もしんどいけど、教職始めた一年目の時が一番やばくて、忙しいし部活もその時は土日フルだったから、仕事でもなんだろう急に涙出るみたいな。で、別で住んでたんだよまだ。そんな時、一時間くらい離れてるのに毎日会いに来てくれたのね、私あんまり寝れなかったんだけど、あっちも仕事あるのに寝れるまでずっと話聞いてくれて。(ティーパックを手に取り) これ、このノンカフェインの紅茶、私好きなんだけどさ、落ち着くようにこれをいつもいれて、これ飲みながら夜ずっと過ごしてくれて。それでもっと一緒にいたほうがいいってなって同棲する話になったんだけど。まあ、なんだろう、なんかああいいう時間があったから、色々あるけど私たちは結婚するんだと思う

南、カメラのシャッターを切る。

恵 いや、はずいこと言ってた

南 いやいや

玄関のドアが開く音がして、陸、リビングに入ってくる。

恵 おつかれい

陸 うい

恵 タオルいる？

陸 いいや

恵 大体打ち合わせやっといたから

陸 ああ、ありがとう

恵 今日はこれくらい？

南 ですね。またこっちで準備してくるので来週あたり電話させてください

恵 了解。みっちゃんご飯でも食べてく？

南 ああーご一緒したいんですけど、帰ってやりたい作業があって別日にさせてもらってもいいですか

恵 多忙じゃのう。じゃあ、また別日でいこ

南 お願いします

恵 お茶飲む時間くらいはある？

南 はい

恵 じゃあ一服していきな

南 ありがとうございます

恵、お茶を入れ始める。

恵 (窓の外をみて) 雨やまんね

南 ですね

恵の携帯が着信する。

恵 ちょい待って、(陸に) やつといて

恵、電話に出ながら、寝室へ。

陸、お茶を入れる。

恵、リビングに戻ってきて。

恵 昨日財布体育館に置いてちゃってたみたいで、流石にとってくるわ。みっちゃん送るからね、すぐ戻るから

恵が家から出ていき、陸と南が残る。

陸、お茶を出して、お菓子を南の前に置く。

陸 雪の宿、お茶うけです

南 口止め料？

陸 違う

南 ありがとうございます。先輩なんだかんだ愛されてますね

陸 何の話してたの

南 ただ、めぐちゃん先輩の気持ちをもう少し感じたほうがいいですね

陸 まじで何の話？

南 そんな大事な話はしてないです

陸 俺弟しかいないから、女心わかんないんだよな

南 なんだその理屈。先輩ちよつとここにめぐちゃん先輩へのメッセージかいてもらっていいですか

陸 メッセージ？

南 いつもありがとうございますでもなんでもいいんですけど。手書きのものがほしくて。映像の中で使うかもです

陸 ほう

南 日頃の感謝と愛をどうぞどうぞ。で私はその様をとっておくので

南、映像を撮り始める。

陸 急にメッセージといわれてもな

南 なんでもいいんですよ

陸 うーん。あと撮られながらなのはちょっと落ち着かん

南 さっきもひどかったですもんね

陸 いや、最初だけね

南 手つないでいったら、こんな指だけつかむみたいな、ええ？みたいなねえ

陸 それは監督の指示が悪い

南 はい？私童貞の演技してくださいって言いました？

陸 すいません。緊張してました、私が悪いです

南 それでいいんです反省してください

陸 容赦ねえな

南 めぐちゃん先輩は「久々に撮られるの楽しかった」って言ってましたよ

陸 あっちは元々出演だったからねえ

南 また映画どうですかって誘ったら即お断りされてしまいました

陸 仕事大変なのよ

南 ああああーまじで人いねえんですよ

陸 めっちゃ喋りながら撮ってるけどこれはいいやつ？

南 音使わないので、えもえも「POP」でかき消すんで大丈夫です

陸 そうすか。人いないの

南 いないですねえ

陸 まあそっか、コロナもあるし、まあ皆忙しいよな

南 就職とか結婚とか

陸 まだ同世代は大丈夫でしょ

南 いますよ全然。コロナの間に就職しちゃったり、企画書渡して〇✕もらったあとに結婚して引越すからZのとか。そんなことばかりですよ

陸 それはお疲れ様

南 人が消えていくのは寂しいですね

陸 ふむ

南 先輩も。もう映画やんないですか

陸 俺はもういいですよ

南 前脚本一緒に作れた時結構楽しかったですけどね私は

陸 ああ、まあ、俺も楽しかったよ。脚本の共作初めてだったから、ちょっと散らかってたけど

南 でももう何本か作れたらこの作り方形になりそうって、これからも一緒に作るうって、金山駅前シリーズで先輩言いました

陸 場所が具体的

南 言ったのにやめちゃうんですよ

陸 いや、それは。前も言ったけど仕事が忙しいし。というかそもそもあれじゃん

南 どれですか

陸 そのタリーズの後で色々あったからもう一緒にはできないって話でしょ

南 要は寝たからだめだってことですか

陸、南に視線を移す。

南 (カメラの画面を見て) あれ、画面ついてない

陸 ……壊れた?

南 いやなんかたまにあって、ちょっとすると治るんですけど。修理出さんとなあ

南、カメラを傍らに置いて。

南 まあ、iphoneちゃん持ってきてるのでそっちに切り替えますが

と喋りながら自分のカバンをあそびている。

南 はあー

南、カバンに突っ伏したのちに、頭をカバンに突っ込む。

南 ああああー

陸 どうした

南 こんなこと繰り返して、最悪の人間だ

陸 どうした、なにが最悪なの

南 ……仕事仲間と性欲を向ける相手の区別もつけられない

陸 ああ

陸、南の肩にちよんと一瞬触れる。

陸 えっと、ドンマイ

南 触るならがっとなんか触ってくださいよ

陸、バンと南の背中をたたく。

陸 ドンマイ!元氣出して

南 (カバンから顔をだして) よいしょ!ちよっと待ってください

カフェインの錠剤を呑む。

南 目覚ます!

陸 何飲んだの

南 フリスクです。かけました?

陸 まだどうしよ

南 iPhoneで映像を撮り始める。

南 先輩慰め方が荒いんですよ

陸 俺弟しかいないから

南 しつこいなあ

陸 すいません

南 あの時も、なんていったんだっけ、あれ

陸 なに

南 だからあの時ですよ、カラオケいった後私が終わった話して

陸 終わってた？

南 だからさっきの話でもありますけど、浦出君ですよ

陸 ああなんか一回寝たら好きになられちゃって大変みたい

南 そんなひどい言い方してないですよ

陸 そうだっけ

南 ちょっとは言ったか。いや、で、まあそれで浦出君、大事なプロデューサー志向の同世代だったのにこじれて仕事できない、みたいな話をして

陸 したねえ

南 でなんかさっきみたいな感じで肩たたいたりしながらなんか変なこと言ってたんですよ、何だっけ。後から脚本に使うと思ったんだけどな

陸 絶対やめてくれ

南 あーもやもやする

陸 酒飲んで忘れよくらいのことじゃない

南 それも言ってた、レモンサワー買ってなんか公園あって飲みましたよね

陸 そうね

南 で、変なこと言ってたんですよ

陸 ていうかもう過ぎた話だよ忘れようよ

南 ……『酒なんかじゃ忘れられないですよ、先輩だって、めぐちゃん先輩、振ら

れたけど諦めきれないでしょ？』

陸 いや……え、なに

南 そこは『俺は諦めねえよお』ですよ。いや、あの時のラリーをしてみたらしい
出さかなくて先輩の言った変なこと

陸 なにそれ

南 『めぐちゃん先輩、振られたけど諦めきれないでしょ？』

陸 いや、やんないよ

南 （お菓子を返して）口止め料返してもいいんですよ

陸 いやいやいや

南 『あきらめきれないでしょ』

陸 ……俺は諦めねえよお

南 で、どうするんですか

陸 だから時間空けて連絡だけしてみるよ、謝るしかない

南 そもそもなんでばれたんですか風俗いったのなんて普通ばれないですよね

陸 だから携帯で動画一緒に見てて、で、ラインが来て、例のピンサロ高校の時の
友達に誘われて行ったんだけど、『今度はソープいこう』って、それめぐが見て固ま
って

南 悪い友達だなあ

陸 で、そっちはどうすんの。浦出君

南 どうもこうも。お互いブロックなんで。終了です

陸 そうか

南 むこう十年くらい一緒に仕事できたかもしれないのに

陸 ドンマイ

南 これで生まれなくなった作品があったかと思うと、愚かすぎて死にたい

陸 身体が邪魔だ

南 ……身体が邪魔だ

陸 身体、もだしそれに付随する性欲か、俺だけじゃなくて全員性欲ない世界だっ

たらしいのに

南 人類滅亡待ったなしですね

陸 でもほんとに、だって身体がなければ俺、もっと純粋な愛情というか

南 純粋に愛せる

陸 そうだよ

南 純粋に愛してるのにお金払って女の子と遊んじゃうんですね

陸 俺も男だから

南 古い

陸 そうね。いや、男だからとかは実際思っていない。男っていうか全体的に。性欲があるじゃん普通に発散しないと困る量の。だから、これ、きもいけど。逆にめぐの方はそういうの平気なのかなって思う

南 先輩たちいつからレスってたんでしたっけ

陸 前も言ったがレスってほどじゃない

南 いや三カ月に一回はレスですよ。だって四季と同じ数しか来ないんですよ。衣替えするタイミングでしかないんですよ

陸 わかってるようるせえなあ

南 気分を変えるために、コスプレとかしたらいいんじゃないですか。AVみたいな制服とかメイド服とか宇宙服とか

陸 どんな特殊なAV観てんだよ。あのねえ、南さん。僕たちはめぐが大学一年の時から付き合ってるんですよ

南 もう別れましたけどね

陸 うるさい、で、長く付き合ってたんだからそれくらいのこととはやってる。というかそれ以上もやってる

南 エロい話だ

陸 いや、普通の話だよ。普通に。コスプレもローターも手錠使ったソフトSMも、スローセックスも、旅行と散歩をすると身体のリズムが合うっていうどこぞの作家の理論も、もちろん無数のノーマルな行為も、全てやってきているんだよ。やったうえで今なんだから。誰にも余計なことと言われる筋合いもないんだよ

南 別になんも言わないですよ。いや、今余計なこと思いついたんで言っているだけで

すか

陸 いやだ

南 レスだったのにまた付き合いたいんですね

陸 ……好きだからね、結婚したいって思ってるし

南 セックスはうまくいかないけど

陸 それは話し合って良くしていけばいい

南 最悪風俗いけばいい

陸 もういいかない

南 実際その風俗は気持ちよかったんですか

陸 ……良かったよ

南 (爆笑)

陸 ぼけが

南 素直な方が可愛いですよ

陸 そっちはどうだったんですか

南 なにが

陸 浦出君とは。良かったんですか彼とのそれは

南 興味ありますか？

陸 ある。さっきの仕返しの気持ちもあるけど

南 まあ、良かったですよ。元々話が合って、友達としていい感じだったんで。結局友達と間違ってるセックスってそこそこいいんですよ

陸 ああ、そう

南 いいんですけど、まあ払う代償が大きい。私も身体が邪魔だは少しわかります。私は身体大事だし、いりますけど、たまにはわかります

陸 そう

南 (指を唇に当てて) わらひふろにはふほへ

陸 え？

南 わらひふろにはふほへ

陸　なんて

南　だってこの時にはなんかもうお互い手とか触りあった末に口の中に指とかいれてたじゃないですか

陸　……

南　わらひふろにはふほへ

陸　私プロになるので

南　ほうひふほほおおうおああんああおあえおうあお

陸　こういう男とどうこうとか半端なことはやめようかと

南　おおうんえうえお

陸　思うんですけど

南　なんであるの時、口に指入れあってたんでしょうね

陸　いや、そんなの興奮するからでしょ普通

南　そりゃそっか

陸　でも、俺が最悪なのわかってるから、めぐにも、南にも。ていうか男とこじれたくないって言ってくれてる相手にやることじゃないってわかってるのに、ごめん

南　謝らなくてもいいんで、今度カナザワ映画祭に出したい作品があるんで脚本一緒に書いてくれませんか

陸　ごめん、そういうのはできない。ほんと色々ごめん

玄関のドアが開く音。

陸と南、離れる。

陸　動画

南　消します

恵、部屋に入ってくる。

恵　ごめんばたばたしてて

陸　いや、どしたの

恵　ちよっと仕事で何本か電話しないとイケなくて、ごめんけど陸、みっちゃん送ってて

陸 それはいいけど大丈夫？

恵の携帯着信する。恵、携帯にはすぐ出ず。

恵 ごめんみっちゃんそういうことで

南 いえいえ、忙しいときにすいません

恵 また連絡する

南 はい

恵 最寄り駅から歩く？

南 え、ああ、十分くらい

恵 玄関のところにビニ傘あるで。持ってっていいから

南 ありがとうございます

陸、南、家から出る。

恵、電話に出て寝室へ。

内容は聞き取れない程度の音量で恵が電話越しに話している声がする。

やがて通話が終わり、静寂が訪れる。

恵がリビングに戻ってくる。

辛いスナック菓子を持ってきて食べ始める。

マグカップにお茶を入れ始める、その際、南が置いていったカメラに気づく。

恵、南に電話をかける。

恵 カメラ忘れてる、そうそうそう。今って……もう駅いる？あー駅まで陸戻せたらいいんだけど運転中は出んから、うん、うん？わかったわかった待ってる

恵、ふーっと勢いよく息を吐いてお茶を冷まして飲む。

恵、カメラに視線を移し、カメラを手取る。

何気なくカメラを構えたり、触っている。

すると何か小さな音が聞こえ始める。

話し声が聞こえるが、音が小さくてよく聞き取れない時間が数秒ある。

恵は気になり、画面を操作して音量をあげる。

先ほど陸と南が話していた際の音声が流れ始める。

▽南 前脚本一緒に作れた時結構楽しかったですけどね私は

▽陸 ああ、まあ、俺も楽しかったよ。脚本の共作初めてだったからちよつと散らかってたけど

▽南 でももう何本か作れたらこの作り方形になりそうって、これからも一緒に作ろうって、金山駅前のタリーズで先輩言いました

▽陸 場所が具体的

▽南 言ったのにやめちゃうんですよねえ

▽陸 いや、それは。前も言ったけど仕事が忙しいし。というかそもそもあれじゃん

▽南 どれですか

▽陸 そのタリーズの後で色々あったからもう一緒にはできないって話でしょ

▽南 要は寝たからだめだってことですか

恵、カメラを見つめている。雨の音が強くなっていく。

時間は、夕方から夜へと変わっていく。

玄関を開ける音がする。

陸、リビングへ戻ってくる。

陸 まだ全然降ってたわ

恵 ……

陸 大丈夫だったさっきの仕事の

恵 もう終わった

陸 そうよかった

恵 これ

恵、カメラをこたつ机の上に置く。

恵 忘れてったみたい

陸 ああ、どうしよう

恵、再生ボタンを押すと、先ほどの音声流れる。

▽陸 そのタリーズの後で色々あったからもう一緒にはできないって話でしょ

▽南 要は寝たからだめだってことですか

陸、カメラを操作し、音声を止める。

沈黙。

陸 ごめん

恵 ……

陸 ごめんこれは

恵 ……

陸 ごめん

恵 これ、取りに来るみたいだから返しといて

恵、コートを手に取り、家から出ていくとする。

入口で陸はそれを阻む。

陸 話をさせてほしい

恵、もう一度出ていくとするが、再び陸が阻む。

陸 ほんとにごめん、少しでも話をさせてほしい。全部別れてた間のことなんだ、付き合っていた時に何かあったことは一度もない、連絡も取ってない

恵 別れていた間のことだった

陸 そう

恵 別れてたってたった一ヶ月だよ、しかもこっちから振って、そっちはよりを戻そうとして、何度か話してた一カ月だよ、その間にこんなことできる？

陸 いや、それは

恵 そもそもあの時別れたのそっちが風俗行ったからだよね、それでこれ？

陸 ごめん

恵 きもいよ、はっきり言って

陸 ごめん、その通りだと思う

恵 今日一日私バカみたいだね、何も知らないでこの三人で結婚式の映像とか、

バカじゃん。二人は、楽しそうにしてたね、レスがどうか何でもかんでもべらべら喋って盛り上がって

陸 ごめん

恵 『めぐの方はそういうの平気なのかな』とか、は？平気？なにそれ、平気なわけないじゃん。三カ月に一回しかしてない状態が平気なわけなくない？私は問題だと思ってたよ、でもそっちは関係ないよね風俗行って、後輩と寝て

陸 ごめん

恵 きもいほんと

陸 申し訳ない、でも、俺も問題には感じてた。レスのことは解消したいと思ってた

恵 ……

陸 その件については俺は、めぐは逆に問題に感じてないのかと思ってた、めぐから拒否されることが多かったから

恵 え？この状況で私責められてる？

陸 責めてない。ただちゃんとお互いの認識を話したほうがいいと思って

恵 認識？は？いいからどいて

陸 もう少しだけ話をさせてほしい。あの一カ月の間に別の人とそういうことをしたことは本当に申し訳なかった、気持ち悪いことだと思う。でもそれとは別に二人の問題については、俺は俺で真剣に悩んでたし、これからも話し合って良くしていく気持ちがあった

恵 これからとか、よく今言えるよね

陸 ごめん、申し訳ない。そうだねほんとに。ただただ傷つけて申し訳なかった

恵 ……私、ここにいたくないんだけど。どうしたら出ていかせてくれるかな

陸 話をしたい

恵 じゃあ話してよ、満足するまで話していいよ。それが終わったら出ていくから陸 わかった、それでいい……まず僕が別の人とそういうことをしたのは、不誠実な行為だった申し訳ない

恵 はい

陸 今さっきめぐがない間に、二人の問題なのにべらべら話していたのもすごく

不快だったと思う、申し訳ない

恵 はい

陸 最近僕たちがあまりうまく、うまくいっていない部分があったことについて責めるような言い方をさっきしてしまったのも申し訳ない、こっちに問題があったと思ってる、それも申し訳ない

恵 はい……終わりでいいですか

陸 いや、あとめぐがどう思っているのかをききたい

恵 さっき言いました。きもいです。それだけ

恵、出ているとすると、陸は阻む。

陸 さっきの件の話も聞きたい。レスのことめぐは拒否していると思ってなかった？

恵 言いたくないです

陸 言ってほしい、めぐが本当にどう思ったのか今聞きたい。僕たちはそういう話を避けすぎていると思うそれが問題で、いや、僕が問題なんだけど、とにかくめぐは、僕は拒否されていると思ってる。めぐが最近僕を子供みたいに扱って、何かにつけてよちよち言葉で喋る時は避けたいときだと思ってる。あれは拒否だと受け取っていたし、正直嫌な部分があった。めぐはどう思っていただろう

恵 拒否してました。はい

陸 それはどうして

恵 どうしてだと思おう

陸 いや、それは、僕の男性的な魅力がないとか

恵 だんせいできみりよく

陸 違う、か、えっと

恵 疲れてたからだよ

陸 え

恵 疲れてたからだよ、すごく疲れてたから。君とセックスするより一時間多く寝たかったから。明日朝から部活だから、式場との打ち合わせも夕方あるし、洗濯も掃除も買い物もしないといけないから

陸 疲れてた

恵　ほんと伝わらなかったよねそこはずっと、何回も今まで私は眠いっていつてるのに結局なし崩し的に何回もしたことあったけど、あれだってすごく嫌だった、やるのは何かの義務か、罰なのかって思った日もあった。でもほんと疑問だったんだよ。そんなにやりたいなら、その時間を作るために私がしてる分、お風呂掃除でも洗濯でも結婚式の準備でも少しはやってくれたらいいよね？それで毎日一時間も時間が空いたら少しはましだったと思うんだけど

陸　はい

恵　あと子供扱いされるのが嫌だって言ってたけど、でもそうするしかなかったんだよ、だってペットボトルはラベルをとってつぶして捨てるとか、洗濯するとき下着はネットに入れるとか、簡単なこと何回言ってもやってくれないわけで、そんな子供か何かだと思ってしまうよね。それで、子供相手にドキドキするわけがないし、性欲わかないんだよ

陸　はい

恵　話しました。どいてください

陸、身体をどかして入口を開ける。

陸　今日は、帰ってきますか

恵　友達の家に泊まるので帰ってきません

陸　はい

恵、お腹を抑える。体調が悪そうな様子。

恵、出ていこうとするが、入口で立ち止まる。

恵　私が我慢できていたのはさ、自分だけが苦しいわけじゃないって思ってたからだよ、二人の問題だと思ってたから、でもそっちは適当なはけ口を用意してて、私だって別に他の男の人と飲みに行くことも、夜電話することもあるし、そういうとき関係性が発展してどうにかなくてもおかしくない瞬間もあった、でも一線を守った、あなたは守らなかった、『身体のせいだからしょうがない』みたいな言い訳してむかつくんだよ、だって私は、身体が何を言ってきたとしてもそれをちゃんと抑えて裏切らなかつたから。一回別れてまた付き合い始めた時、今度こそ疑いたくないし、信頼しあえる関係になりたいって思ったから

恵、再びお腹を押さえる。

恵　痛っ……

陸 大丈夫

恵、近寄ろうとする陸を払って家から出ていく

陸、一人残される。

少しして、玄関のドアが開く音。

南が、リビングに駆け込んでくる。

南 先輩

陸 え

南 あの、車、救急車、病院

陸 え、なに

南 病院に連れてかないと、あの、めぐ先輩玄関出たところで倒れています

暗転。

第三幕

第二幕から二日後の朝。

リビングに明かりはついていないが、カーテン越しの穏やかな光が部屋を満たしている。

静かな朝の時間が流れている。

やがて、玄関のドアを開ける音がする。恵がリビングに入ってくる。

恵、スマホを操作してメッセージを一つ送る。

恵、寝室へ向かい、封筒を持って戻ってくる。

玄関のドアを開ける音がして、南、リビングに入ってくる。

恵 部屋の前いなかったから、ついてないかと思った

南 エントランスの隅にいて……。すみません

恵 謝らなくていいよ、怒ってもないし

南 すいません

恵 いや別れたって言ってたわけだし

南 すいません

恵 ほんとに、謝らなくていい

南 はい……。身体はもう大丈夫なんですか

恵 まあ、倒れた後のことは何も聞いてない？あっちから

南 簡単に、胃潰瘍で検査入院ってだけ

恵 そう、で昨日一昨日で検査も終わったし、絶食してここも休まったから

南 大事じゃなくてよかったです

恵 それで、早速だけど来てもらった用事

恵、封筒を南に差し出す。

恵 この前撮影してくれてた時のお礼。ギャラ

南 受け取れないです

恵 受け取ってよ、仕事したんだから

南 受け取れないです。映像渡してもないのに

恵 いいから、これのためにわざわざ来てもらったんだから

恵、南の前に封筒を置く。

南、封筒に目をやる。

南 あの、これって、この仕事はもうここで終わりってことですよね

恵、沈黙している。

南 はい

南、封筒を受け取り、立ち上がる。

南 失礼します

南がリビングから出ていきそうなところで。

恵 話してもわかんないよね

南 え

恵 「話そう」とか「思ってること言って」とか、みっちゃんの昔の映画、あれ、彼氏との喧嘩音源使ってたやつでもさ「ちゃんと話そうよ」みたいなこと彼氏言ってたよね、あれ、ほんと、男はいざとなると言うね

南 ……

恵 いや、そういうことが倒れる前あったから

南 ああ

恵 入院中あの映画のことずっと思い出してた

南 あれ、上映会の時、先輩だけ面白って言ってくれましたよね

恵 そんなことないでしょ

南 いやほんとに内容ぼろぼろだし、周りの人傷つけてまで作らなくてよくないとか言われたし、もう辞めようと思ってたくらいで、でも先輩は面白って

恵 覚えてない

南 私はずっと覚えてます、あれのおかげで次が撮れたので、だから、この映像の

話も受けたんです、私には一番大事な先輩、なので、私には

恵 別に私も……なんでこんなことになってんだろ

南 ……

恵 ただの面白くて、かわいい後輩、なのにね

恵、窓の方へ立ち駐車場の方を眺める。

南 車、停めにいってますか

恵 そう、来ちゃうよじきに、怖い、車でも一言も話してないからね

南 ああ

恵 三七五万なんだけど

南 え

恵 料理七十二万、飲み物シャンパンとか合わせると三十万、カラードレスのレンタル二十万、引き出物十五万、式場費四十万、後花だけで十五万、前撮りも十万、親に一部借りて、あとで返す話になってんだだけど

南 はい

恵 それを思うと、今から話すのこわいわ……。私は我慢したのにな

南 ……

恵 去年大学の時の友達と飲んでたときにそうなりかけたことがあって

南 えっと

恵 四人で飲んでたんだけど、仲良くしてた男の子が、当時私のこと好きだったと
か言い出して、なんだよって感じで飲んで、その話題の後で、机の下で手握ってき
て

南 あー

恵 で、私もなんかそのまま握ってて、だいぶ酔ってて、店出てハグしたりはして
て

南 おー

恵 で、その子がタクシー呼んでて「一緒に乗る？」って

南 はい

恵 で、私は乗らなかった

南 えー惜しい

恵 おいおい

南 いや惜しい、「えいっ」て乗っちゃえばいいのに

恵 「えいっ」ていや、そんな思い付きみたいに動けたらそりゃ楽だろうけどさ、
そういうわけにもいかないじゃん

南 でもずっと我慢は辛くないですか

恵 ……

南 Don、t think feel

恵 なんだっけ、ジャツキーチェン

南 ブルースリー

恵 ああ、『考えるな、感じる』ね。苦手なんだよそういうの

南 私はむしろ逆のこと自分にいい聞かせないとなんですよね

恵 何逆って

南 感じたままに動きすぎてるっていうか

恵 Don、t feel think、感じたままに動きすぎだ、ちょっとは考えろ

南 あの、もっかい今の言ってもらっていいですか、できれば本気で

恵 ……感じたままに動きすぎだよ！ちょっとは周りの迷惑考えろ！

南 ありがとうございます！

恵 何これ

南 胸に刻みたくて

恵 わけわからんわ

南 先輩、またご飯とか誘ってもいいですか

沈黙。

南 あ、すいません

恵 いや、違って、いや、うん

南 ご迷惑おかけしました。先輩、さようなら

恵 さようなら

南、家から去る。

やがて玄関からドアが開く音。

陸、リビングへ入ってくる。

陸 寝てなくていいの

恵 病院でずいぶん寝れたから

陸 そう。寒くない？

恵 大丈夫

陸 そっか、今日結構あったかいもんね

恵 そろそろ、大事な話をしよう

陸 めぐが元気になってからじゃだめかな。せめてもう一週間して、その時に話す
恵 結婚式再来月だよ。私たちだけじゃないだよ、親もいる、招待してる職場の人
もいる、昨日式場との打ち合わせもキャンセルになっちゃったけど、ほんとだった
ら急いでいろんなこと決めていかなきゃいけない時期だよ。今話そう

陸 わかった。話す前にお茶入れようか

恵 自分で入れる

陸 わかった

陸、電気ポットからマグカップにお茶を入れる。

陸がポットから離れた後、恵もお茶を入れる。

二人、離れた位置に座る。

恵、お茶を冷ますために、第一幕、二幕でしていたように強い勢いで息を吐く。

陸、その様子を見て、突然泣き出す。

陸 ごめん

陸、ティッシュで顔をぬぐう。

恵、その様子を見る。

陸 いや、無事で生きててよかった、から

恵 ……

陸 ごめん話そう

恵 入院中別れようと思ってずっと思ってた、親へのあいさつもして、式の準備もして全部ひっくり返すとかほんとありえないけど、二回裏切られたことをなかつたことにできない

陸 はい……。思ってたっていう言い方をして、いると思うんだけど、今はどう思っている？

恵 別れたほうがいい、この家帰ったら言うのしんどくなっただけ……。幸せな時もあつたから

恵、部屋に置かれたディズニーのグッズに視線を移す。

恵 あれ、記念日にいったときのやつじゃん、いつも「怖い」とか言って乗ってくれないけどタワーオブテラー、その日は乗ってくれたとか

陸 そうだった

恵、こたつ布団に視線を移す。

恵 これ（こたつ布団）も、引越してから「こたつにあこがれる」とか言っていて、IKEAまで車出して、やっと帰ったらすぐコーヒーこぼしてさ「最悪じゃん」とか言って、一緒にコインランドリーまで抱えていったとか

陸 ドライモンだ

恵 ドラエモンのもじりで、ドライモンっていうよくわかんない、コインランドリー

陸 「絶対無許可だ」とかいったの、覚えてる

恵 そういうの七年分あるから言いづらい、でも、裏切られるなら別れたほうがいい

陸 もう、二度とめぐのことを裏切らない、誓う。女の子と遊んだりしない、家事も結婚式の準備もちゃんとする。もう傷つけないから

恵 ……

陸 二日間めぐがいなかった、この家で、寝て起きてしたとき、俺気づいて、寝る前にyoutube みながらだらだら喋ってる、それが大切な楽しい時間だったとか、家事のことも、いつも食べるパスタとそばは、切れないように買ってきてくれてたんだとか、小分けのご飯冷凍室に入れてくれてたとか、そんなん別に俺でもできるように全部やらせちゃってたんだって、反省してこれから、全部やる、めぐを失わないように、変わるって言いたかった

恵 変わっても無理だよ

陸 無理って

恵 だって恋愛、いや、陸がどれだけ変わっても、家事をやってくれても、結局、もうそもそも今恋愛の関係じゃないじゃん、私たちレスも結局も恋愛の関係じゃないから起きてるわけで、解決されないじゃん

陸 恋愛の関係……？

恵 じゃれたり、支えたりだけで恋愛じゃないじゃん

陸 それは、子供扱いしてる相手にドキドキしないって言ってたこと？僕が家のこともやって、しっかりしたら改善されないかな

恵 ……

陸 どうしても別れるしかないのかな

恵 ……

陸 おれは、別れたくない。結婚したい

恵 ……

陸 恋愛、がなきゃだめかな、これまでみたいに、くだらない話したり、弱った時は支えあったり

恵 ちよっと待って

陸 え

恵 恋愛がなきゃだめかな？え？だめにきまつてるじゃん

陸 いや、恋愛は恋愛であるんだけど

恵 いや今なくていいって言ったじゃん

陸 いや

恵 あ、そっちは、そっか。別にもうなくていいか、十分遊んだか

陸 え、なに

恵 高校で彼女いたでしょ、大学の初期は翔子先輩と付き合ってたでしょ、みっちゃん、あと風俗？十分遊んだよね

陸 え、なによくわかんないんだけど、めぐは遊びたいってことなの？

恵 そんなこと言ってない

陸 いや言ってるじゃん、俺以外の男と恋愛したいってこと？、それができたら満足？

恵 ああ、そうなんじゃない

陸 ええ……

恵 どうせわかんない

陸 いや、わかんないよ、ていうかおれだって別にそんな恋愛をたくさんしてるわけじゃない

恵 でも一と五は違うから。一と五って一と百くらい違うから

陸 ほんとにわからん、まじめに話そうよ

恵 まじめだよ、本気でいってる

陸 ……

恵 結婚したらもう他の人とも恋愛がなくて、ここにもないんだって思ったら、身体が冷たくなってくみたいな感じで、多分、何年かして、私たちが子供を育てる人生を選んだら、すぐにお互いのこと「お母さん」「お父さん」って呼び合うような関係になるんだろうね

陸 え、それ、だめ？

恵 だめじゃない、でも、私は、いや、もしこれが二十代でたくさんいろんな恋愛して落ち着いたところに、三十代とかで出会ってたら、支えあっていこうみたいな話を、それだけでも受け入れられたかも

陸 ええ……

恵 でも、私は、異性として扱いたい

陸 異性だよそれは、さっき恋愛がなくてもっていつちゃったのは、ちょっと落ち着いた関係になるだけで、楽しく支えあって暮らして、子供も育てて、なんでもなの、そうやってめぐと一緒に入れたら俺はそれだけで人生幸せだって思えるけど、めぐは違うんだよね

恵 私だって結婚してずっと一緒にいたら、それで幸せだって思ってたよ七年間、でももうわかんないんだよ

陸 ……わかった。恋愛をちゃんとしよう

恵 いや、ていうか泣くのやめてよ

陸 泣いてない、けど、泣きすぎてなんかすごい頭痛い

恵 こっちだよ、おなか痛くなってきた

恵、身体を曲げてうずくまる。

陸 え、大丈夫、薬飲む？水

恵 今いい

陸、恵の身体をさする。

恵 いいって、頭痛いんじゃないかったの

陸 大丈夫

陸、恵のカバンから薬を取り出し、恵の近くに置く。

毛布を手に取り、恵の身体にかけてまたさすり始める。

しばらくの間、陸はただ、恵の身体をさすっている。

ただ、それだけの時間が流れる。

恵、うずくまった状態から仰向けになるよう身体を動かし、陸の顔を見る。

不意に電話の着信音が二件続けて鳴る。

陸と恵それぞれ携帯を手に取る。

陸 式場だ

恵 職場、なんかあったかな……

恵、スマホを手に持ちながら辛そうな様子。

陸、自分のスマホを操作し着信を切る。

その後、陸は恵の手を取り、スマホをその手の中からそと取り出す。

恵のスマホを二人から離れた位置に置く。

陸、恵を抱きしめる。背中をさする。

まだ、着信音は鳴っている。

陸、恵の身体をたださすっている。

やがて、着信音は止み、静寂が訪れる。

恵、横になったまま、陸の顔に視線を送る。

陸の頭に手を伸ばして、頭をさする。

静かな朝の光の中で、「よしよし」と小さく口にしながら、二人はお互いをさすりあ
つていく。

幕